2009年度 NGO・外務省定期協議会
「ODA政策協議会」NGO側振り返り

2010. 6. 18

ODA政策協議会コーディネーター一同

2009年度の振り返り

【成果】

- ・年間を通じて、大変よい雰囲気のもとに協議会を実施することができた。
- ・実施要項改定により、副大臣、大臣政務官の出席が明記されたこと、サブ・グループが運用可能となるなど、当協議会の役割や位置づけを向上させる動きがあった。
- ・内容面でも、ODA中期政策の改定からODAのあり方検討にかけての議論について、年間を通じて継続した議論を行うことができたことは成果といえよう。

【課題】

- ・一方、政策対話が真に「建設的」であったかは疑問が残る。事前質問への外務省側からの応答・情報提供が協議会当日となることが多いこと、NGO側も有効な論点の提示に至らない場合があるなど、双方の努力不足も見受けられた。
- ・外務省側からの議題案提出の動きがあったことは評価できる。ただし、これについても単に当日「ご意見承る」だけに留まらず、外務省側議題案に対しNGO側も十分な準備・知見・人員を備えて臨めるよう、双方の努力が求められる。

ODA政策協議会の「目標」とは？

「ODA・国際協力に対する厳しい政治的・経済的環境の下、
NGO・外務省があえて厳しいテーマを選び、友好的だが緊張感ある議論を通じて、
ODAに関わる政策課題を提起・顕在化し、もって不断のODA改革に資すること。
また、そのためのオープンかつ質の高い対話の場を創造、運営していくこと。」

2010年度に行うべきこと

【新たな課題】

- ・NGO・外務省双方が議題案を提出することを想定し、当日に有効な政策対話を行うために必要な準備プロセスおよび業務フローを、双方合意のもとで整備し、運用をはじめていくこと。
- ・ODAのあり方検討・見直しプロセスにおいて、常設のNGO・外務省協議体として必要な役割を果たし、フォローアップを行っていくこと。

【今後の改善へ向けて】

- ・NGO側コーディネーターのイニシアティブのもと、一度扱った議題についてのフォローアップを行い、必要な場合は適切な論点整理を行いつつ、継続した議論を行えるようにすること。
- ・副大臣、大臣政務官の出席やサブ・グループの運用など、当協議会に新たに付与された位置づけや機能について、これらを十分に利活用するための模索を行うこと。
- ・さらに開かれた政策対話の場を実現するため、誰にも分かりやすい運営や議事進行のあり方の検討、地域開催の充実、インターネット技術を活用した中継や参加のあり方の検討などを行うこと。

以上